

下川崎工業団地への商業施設 進出と地元対策について

森田 常夫議員

・質問 次の点について伺いたい。

商業施設の具体的な出店概要について

地元商業者の販売スペースの確保について

優先的な地元人材の雇用の確保について
周辺環境対策について

商業施設への来客者を市街地等に誘致する方法について

二極分化対策としての中心市街地活性化策について

・答弁(企画財政部長)
施設配置は、全体を東西二つの区画に分け、東区画には核店舗としてジャスコ、その他約百五十店舗の専門店や飲

食店を、西区画には独立した大型専門店が連なる町並み型施設として、飲食店街、ガソリンスタンドなどを配置する計画になっている。

地元の物産品や飲食店、観光施設などをPRする場所の設置や地場産品を販売する場所の設置を今後事業者側と協議していきたい。

想定される従業員数は、社員五百人、パート従業員二千五百人となっており、これまでにオープンした同施設の実績では、八割から九割が地元

からの採用である。

市としては、地元からの優先的な採用は、重要なことと考えており、事業者に働きかけていきたい。

交通対策については、六千台を超える駐車場を配置し、さらに外周道路や補助道路を設け、通行の安全性や交通の混乱を回避するよう計画されている。また、通学路の問題については、今後、関係機関と十分協議を行い、安全確保の対策を図っていきたい。
羽生駅とイオンモールを結

ぶバスの運行が計画されており、このバスを地元商店街を経由させることにより市全体としての商業の活性化を目指していきたい。

イオンモールのような大型商業施設は、広域の消費者をターゲットとしており、差別化を図ることにより、お互い来客層の住み分けが可能と考えている。また、TMOの支援をはじめとした中心市街地活性化計画に基づく中心市街地の整備と商業活性化を一体的に推進していきたい。

羽生イメージアップ作戦 パート5

蜂須 直巳議員

・質問 近年の国内観光に関する動向は、単なる名所観光だけにとどまらず、産業観光

として、古くからの産業や農業などの物づくりの体験や見学が見直されている。

本市でも農業や藍染めなどの衣料産業、工業団地など気軽な観光対象として門戸開放

を呼びかける考えはないか。

・答弁(経済環境部長)
近年の国内旅行の動向は、団体旅行が減少し、個人旅行

が増加している。そして、農作業や物づくりなどの体験など、身近なことについて楽しみながら学ぶという、新しい形の観光に対するニーズが高

まってきた。

本市において、藍染めについては、埼玉県伝統工芸モデル工場に指定されている二箇所の中で、製造工程の見学や体験の場を提供しており、そのほか、市民プラザで藍染め体験が楽しめるようになっている。

また、農業関係では、キヤッセ羽生を中心に農業体験事業を行っており、手打ちうどん・手打ちそば教室、まんじゅうづくり体験をはじめ、近くの田畑で行うジャガイモ



農林公園主催のじゃがいも掘り体験 (6月6日に実施)

掘りやサツマイモ掘り、田植えなどの体験が人気で、参加者に喜ばれている。

今後は、企業等へも呼びか

け、古い工場や工房、機械をはじめ、当時つくられた都市基盤や製品などの産業遺産を掘り起こし、活用していく方法を検討して行くとともに、農業体験をさらに充実させ、産業観光という新たな視点からPR活動を推進していきたい。

その他の質問

・市民レポーター制度の導入を
・成田行き高速バスターミナルの誘致を